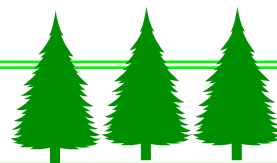




みつぎ便り



第217号 10月号 令和6年10月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です

ツツレサセコオロギ

夏も終わり、例年ならば庭の草むらや公園の岩陰などから虫の音が聞こえてくるのですが、今年は厳しい残暑が続いているためか、暑さに弱い虫たちの声は少なく、さびしいばかりです。

タイトルである「ツツレサセ」とは、古人がコオロギの鳴き声を「肩させ裾させつづれさせ」と聞き、冬に備えたといわれていますが、普通に見かけるコオロギであることからか単に「コオロギ」という名も使われているようです。



ところで古い話になりますが文部省唱歌の中に虫の声という歌があります。マツムシ、スズムシ、クツワムシなど秋の虫がたくさん出てきます。秋に鳴く虫の代表格の一つとしてコオロギも出てきますので、一度紐解いて思い出して口ずさんでみてください。

皆さんそれぞれに思い出すことがあるのではないのでしょうか。(利)

ビックリグミ

昨年の秋、見次公園の花壇の樹木の枝に、一つだけ赤い実が実っていました。みんな色々考えたところかなり以前からここにあるビックリグミではないかということになり文献やネットで色々と調べたところ、やはりそのようです。



提供 写真A C

ビックリの由来は他のグミよりも実が大きいことから来ています。この木はかなり以前からここにあり、サザンカやフヨウ、ノーゼンカズラなどの花の咲く木に紛れて目立たなかったのです。

ビックリグミは花柄がない種子植物で不結実性なので、自分だけでは実をつけれないはずですが、何かの加減で数年ぶりに一個だけ実をつけたのかもしれない。自然界には常識で考えられない思いがけないことがあるものです。

(静)